

Book Fan Newsletter

発行:平成25年2月15日
編集:塩尻市立図書館
0263-53-3365
(Book Fan Newsletter 8号)



『エリック』 ショーン・タン (著) 岸本佐知子 (訳) 河出書房新社 (出版)

ホームステイにやってきた、無口で小さな交換留学生エリックと、彼を一生懸命もてなそうとする「ぼく」との日々を描いた絵本です。生まれが違ふと価値観が違ふのも当たり前ですが、「きっとお国柄ね」とそれを受け入れる「ぼく」の家族のおおらかさに心が温かくなりました。

鉛筆のみで描かれたモノクロの世界がガラリと変わるラストを見る度に、うちにもエリックが来ないかなと思ってしまいました。

興文堂アイシティ店 福田さん



『なでし子物語』 伊吹有喜 (著) ポプラ社 (出版)

父を亡くし、母に棄てられ、学校ではいじめに遭い、心を閉ざした耀子。祖父に引き取られた耀子は常夏荘に連れられ、生い立ちゆえの苦しみを抱える少年・立海と出会う。立海との、そして常夏荘の人々との触れ合いのなかで、凍りついた耀子の心は次第に解きほぐされ、人としての暖かさを育んでいく。

人間らしさとは、自分らしさとは何かを感じさせてくれる物語です。

中島書店 高嶋さん



『心のおくりびと 東日本大震災 復元納棺師 ～思い出が動き出す日～』 今西乃子 (著) 浜田一男 (写真) 金の星社 (出版)

震災後の被災地に入り、ボランティアで三百体以上のご遺体を復元した女性納棺師、笹原留以子さんの活動記録。ノンフィクションの為、少し重い内容ですが、児童書なのでお子様にも読みやすいように書かれています。

ご遺族の傷ついた心にそっと寄り添い、その家族のより良い別れの時の為に、最善を尽くす笹原さんの姿に心打たれます。命の重さ、生きるという事について深く考えさせられる本。あの震災を忘れないために1人でも多くの方に読んでもらいたい一冊です。

丸文書店 金子さん

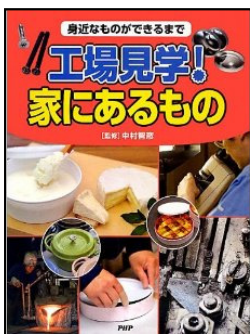


図書館職員が選んだ

今月のおすすめ本

『工場見学！ 家にあるもの』

中村智彦（監修） PHP研究所（出版）



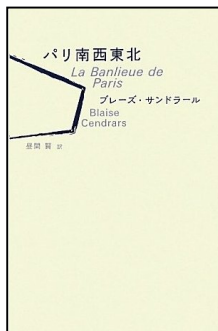
身近にある、生活に欠かせない「もの」は、どのように生み出されているのでしょうか。こだわり抜かれた技術・精密さ、工夫、そして、製品にかける思いなど、日本のものづくりの現場をカラー写真でわかりやすく知ることができます。

こどもが仕事に興味を抱き、一步踏み込んだ探究心を持つきっかけづくりとしてだけでなく、大人が企業のことを知る入門書としても、十分楽しむことができます。

児童技術分野担当

『パリ南西東北』

ブレイズ・サンドラール（著） 月曜社（出版）



スイス生まれの詩人であり小説家であるサンドラールが、まだ知名度の低かった写真家ロベール・ドアーノの写真に序文を書いて出版された写真集、『パリ郊外』。このルポルタージュ全文が初めて翻訳されました。

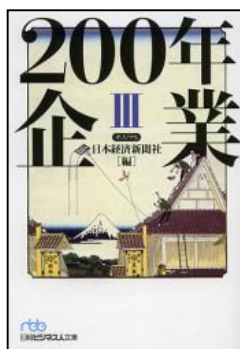
サンドラール独自の視点、文章でパリを東西南北、四つに分けて語っています。じっくりと時間をかけて、想像力を働かせながら読みたい1冊です。

後半には、写真の一部と訳者の丁寧な解説がついていて、当時の時代背景や作品が生まれた経緯なども知ることができ、作品への理解が深まる構成となっています。

外国文学担当

『200年企業 1～3巻』

日本経済新聞社（編） 日本経済新聞社（出版）



本書は、日本経済新聞の連載を再構成したもので、厳しい環境を生き抜き、200年以上続いている「老舗企業」を紹介しています。

長く続いている企業は、自社の強みを活かして利益を上げつつ、社会性も大切にしていることがわかります。

さて、長野県民なら誰でも知っているあの会社の「老舗」の理由は…。

しごと情報分野担当

『決定版 短歌入門』

『短歌』編集部（編） 角川学芸出版（出版）



一流歌人たちが、古今東西、様々な歌を紹介しながら、作歌の基本や表現の方法、上達の秘訣、名歌鑑賞の手引きなど、それぞれの項目を書いている、魅力的な入門書です。執筆者として塩尻に縁のある方も多く登場し、入門書としてだけでなく、短歌の世界をより深く知るのにも適しています。巻末には全国短歌フォーラム in 塩尻や塩尻短歌館の紹介も掲載されています。

日本文学担当

『英語で読む世界昔ばなし BOOK 1』

ベンジャミン・ウッドワード（編）

ジャパントイムズ（出版）



白雪姫、3匹の子ぶたなど世界の名作を、元ジャパントイムズ編集員が読みやすい英語で紹介しています。

英文で収録された朗読CD付きで、音読の練習にもなります。

単語の日本語訳が英文と同じページに、全文の訳文が最後に掲載されているので辞典がなくても理解できます。

こちらは、5巻まで出版されています。

洋書担当